



2014年度
決算説明資料
2015年 5月11日

株式会社UACJ

1. 2014年度通期業績

2. 2015年度通期業績見通し

3. 中期経営計画の進捗状況

本日の目次は、3つあります。

まずは2014年度通期の業績の結果について

次に2015年度の通期の業績見通しについて、

最後に、昨年12月に発表した中期経営計画の最新の進捗について、簡潔に説明します。

1. 2014年度通期業績

2014年度の通期業績についてご説明いたします。

前年同期比で売上高376億円増、経常利益は前年並み

- アルミ板販売量は減少したものの、為替や地金価格の影響等により、売上高は増加
- 統合効果をはじめとする着実なコストダウンを進めているが、タイ工場立ち上げや、電力・燃料単価の影響等によりコストも上昇。
- ローガン工場設備故障により損益は悪化したものの、地金価格の上昇に伴う棚卸評価関係の影響等もあり、経常利益は前年並みを確保。

期末配当 3円/株

- 期末配当は、当初計画通り、3円/株を予定
(中間配当3円/株、年間合計6円/株)

まずは2014年度業績の概要です。

当社は2013年10月に統合したため、2013年度の決算短信では、上期は存続会社古河スカイ単独の決算、下期は統合会社の合計となっています。

しかし、当資料の数値においては、2014年度と比較しやすいよう従来から統合していたと仮定し、古河スカイと住友軽金属、そして統合により連結子会社となったTAAの合算で説明します。

2014年度は、アルミ板販売量は減少したものの、為替レートが円安に振れたこと、および地金価格の影響等により売上高は376億円増加しました。

現在、統合によるシナジーとして着実なコストダウンを進めつつありますが、一方でタイ圧延工場の立ち上げ、原燃料や電力燃料の単価の影響といったコストアップ要因も同時に発生しています。

また、後ほど詳述しますが、TAAの米国ローガン工場の熱間圧延ラインの突発的な設備故障があり、この影響で損益は悪化しました。しかし、地金価格の上昇や棚卸評価関係のプラスもあり、経常利益はほぼ前年並みを確保しています。

当期純利益は、減損損失17億円等の特別損益などにより、86億円となりました。

期末配当は予定通り3円/株とし、年間合計では1株当たり6円を予定しています。

2014年度 通期業績

UACJ

(単位：億円)

	2013年度 (旧両社上期合算*1 + UACJ下期) (A)	2014年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,349	5,725	376
連結営業利益	250	237	△13
連結経常利益	215	213	△2
連結当期純利益	117	86	△31
EBITDA*2	499	488	△11

*1 旧両社合算 … 旧古河スカイと旧住友軽金属工業の合算 (TAAHは持分法適用会社から連結子会社に単純組替)

*2 EBITDA … 営業利益+減価償却費 (のれん償却費を含む)

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

前期との比較を表にしたものです。2013年度の上期は、旧両社合算ベースに換算したものを示しています。

2014年度の売上高は前期より増加しましたが、営業利益・経常利益はやや減少しました。経常利益の減少に比べて当期純利益の減少が大きくなっているのは、主として法人税等の増加によるものです。これは、前期の特別利益である「TAA連結子会社化に伴う段階取得に係る差益」が課税所得に含まれないこと、また、立ち上げ中であるタイ圧延会社の赤字が免税であるため、税効果計算の対象外であることなどによるものです。

なお今回から、比較の指標にEBITDAが加わりました。

海外の同業他社の多くがこの指標を発表しており、比較をして事業環境を見たいという考えからです。

EBITDAは営業利益に減価償却費を加えたものです。キャッシュベースの営業利益などを加えて算出しています。当期のEBITDAは、対前期で若干下がりましたが488億円程度です。

セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2013年度 (旧両社上期合算 + UACJ下期) (A)		2014年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,201	252	4,519	233	318	△19
伸銅品	479	8	506	10	27	2
加工品・関連事業	1,478	40	1,616	46	138	6
(調整額)	△809	△50	△916	△52	△107	△2
合計	5,349	250	5,725	237	376	△13

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

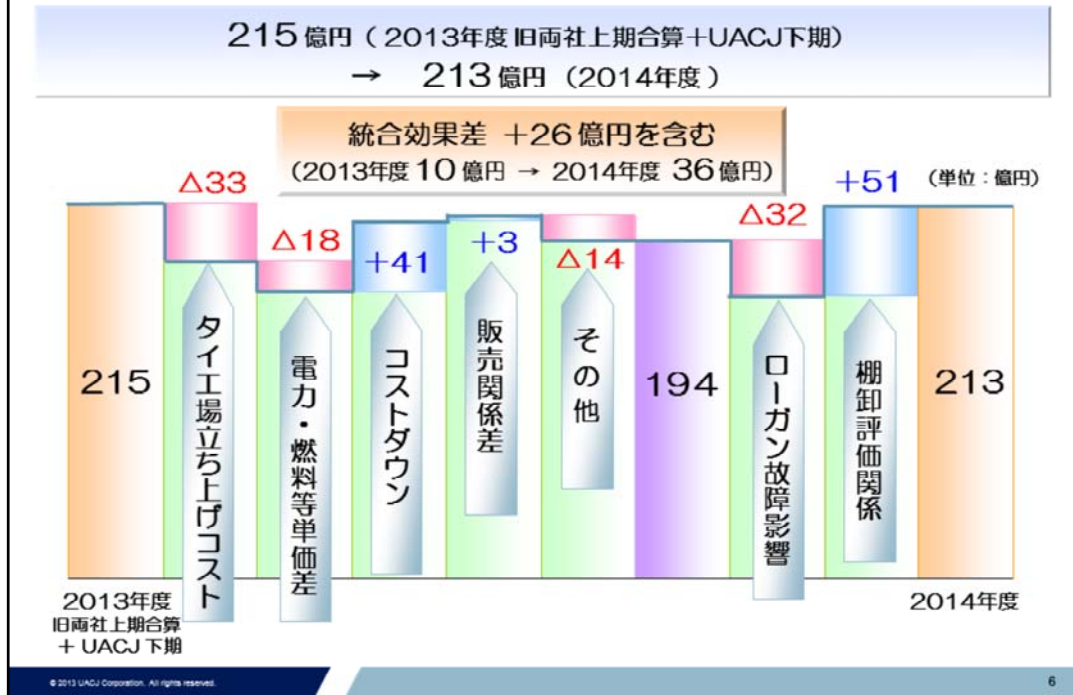
セグメント別の売上高、営業利益です。

アルミ圧延については当社全体の動きと連動していることから、後ほど詳しく説明します。
伸銅品は、上期に主力のエアコン用銅配管が好調だった影響で増収・増益になっています。
加工品・関連事業も増収・増益でした。メインのIT関係(パソコンなどの筐体)が想定以上に好調を維持したこと、地金アップに伴う駆け込み需要が継続したことなどによるものです。

連結経常損益分析

(2013年度旧両社上期合算+UACJ下期→2014年度)

UACJ



2014年度の経常利益は213億円であり、2013年度の215億から減少しました。

タイ圧延工場の立ち上げコストが33億マイナス、電力・燃料が18億マイナス、コストダウンは統合効果差26億円を含めて41億円。販売関係については、次ページのとおり販売量は減少したものの、品種構成の好転などにより前期から3億円好転しました。

最後は特殊要因、先ほど申し上げたTAAローガン工場の熱間圧延の突発故障の影響が32億円発生いたしました棚卸資産評価関係は別ページのグラフのとおり、地金価格が前期に比べ上昇していることから、棚卸資産評価関係で51億好転いたしました。

アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位:千トン)

品 種	2013年度 (旧両社上期合算 + UACJ下期) (A)	2014年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	633	607	△26
箔 地	48	48	0
I T	20	28	8
自 動 車	68	65	△3
厚 板	38	48	10
その他一般材	153	159	6
合 計	960	955	△5
	国内市場向け 524 海外市場向け 436	国内市場向け 516 海外市場向け 439	国内市場向け △8 海外市場向け 3

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

7

アルミ板品種別売上数量の表です。

縦軸に缶材、箔地、IT、自動車、厚板と一般的な製品を示しています。

2014年度は合計95万5千トンの売上があり、対前期で5千トン減少しています。

なかでも減少が大きいのが缶材で、2万6千トンほど減少しました。減少の要因の一つはローガン工場の設備故障です。また、国内ではビール需要減、消費税増税反動に加え、統合による一部ユーザーでのシェア調整もありました。

IT関係は、パソコンなど筐体が好調を維持し、8,000トンの増加です。LNG船用材も好調を維持しており、1万トンと大きく増加しました。

燃料単価推移

UACJ



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

8

先ほど説明した燃料単価の一例を示しています。

2007年にリーマンショックがあり、その後ずっと上がっています。足元は下がっていますが、決算上に影響してくるのは今年の途中であり、基本的な傾向として単価は上がっています。



アルミ地金の日経平均の基準地金と日経平均を示したものです。こちらも増加し続けています。

後ほど説明しますが、2015年は少し低下傾向ですので、それを加味して2015年通期の見通しを想定しています。

主要連結経営指標

UACJ

	2014/3末	2015/3末
自己資本（億円）	1,555	1,723
自己資本比率（％）	25.6	25.4
有利子負債（億円）	2,563	2,960
D/Eレシオ（倍）	1.65	1.72
ROE（％）	*7.7	5.3

* 旧両社上期合算+UACJ下期

© 2015 UACJ Corporation. All rights reserved.

10

主要な連結経営指標です。

自己資本は、為替などの影響で少し増加し、自己資本比率は前期とほとんど同等です。有利子負債は2960億円と大きく増加しており、その関係でD/Eレシオは1.72と悪化しています。その一番大きな要因は、タイ圧延工場への投資です。今後も戦略投資は継続しますが、一般投資は抑制していきます。棚卸資産や鉱物原料も入ってきますので、中期目標の1.33に近づくような施策を進めていきたいと思っています。

ROEは、突発的なローガン工場の故障の影響により5.3%にとどまりましたが、これを除けば中期経営計画の目標線上に乗っていると判断しています。中期目標であるROE10%に近づけるため、施策を積極的に進めていきたいと考えています。

2. 2015年度通期業績見通し

以上が2014年度の通期の決算概況の結果でした。
続きまして2015年度通期の見通しについて説明します。

通期業績見通し 売上高6,400億円、経常利益230億円

- 棚卸評価関係および、タイ工場の一貫生産開始に伴う立ち上げコストの負担増加により損益悪化。
- 一方、前期のローガン工場設備故障の悪化影響がほぼ終息し、統合効果をはじめとするコストダウンの実現、および販売数量の増加等により、経常利益230億円を見込む。

配当年間 6円/株を予定

- 安定配当の観点から、配当は年間6円/株を予定
(中間配当3円/株、期末配当3円/株)

2015年度の業績は、売上高としては6,400億円、経常利益230億円を見込んでいます。

まず、マイナスの部分としては、地金ベースなどの棚卸評価関係が2015年度に悪化し、マイナスになると見込んでいます。また、立ち上げ中であるタイ圧延工場のマイナスが続く見込みであり、この二つが大きなコスト負担増となっています。

一方、2014年度に発生したローガン工場の設備故障の悪化影響がほぼ終息するほか、統合効果をはじめとするコストダウンが実現し、販売数量も若干増加する見通しです。その結果、経常利益は230億円を見込んでいます。

配当は、安定配当の観点から、1株当たり年間6円を予定しています。

2015年度 通期業績見通し

UACJ

(単位：億円)

	2014年度 (A)	2015年度見通し (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	5,725	6,400	675
連結営業利益	237	265	28
連結経常利益	213	230	17
連結当期純利益*	86	110	24
E B I T D A	488	538	50

諸元 (2015年度) : アルミ地金日経平均 295円/kg, 為替 115円/US\$, 原油 60US\$/B

* 連結当期純利益… 親会社株主に帰属する当期純利益

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

2015年の通期見通しです

先ほど数字をお伝えしたとおり、対前期で増収・増益を見込んでいます。

当期純利益も110億円まで復活すると想定しています。EBITDAについても500億円を超え、538億円を見込んでいます。

セグメント別 売上高・営業利益見通し

UACJ

(単位：億円)

	2014年度 (A)		2015年度見通し (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,519	233	5,004	270	485	37
伸銅品	506	10	579	14	73	4
加工品・関連事業	1,616	46	1,796	44	180	△2
(調整額)	△916	△52	△979	△63	△63	△11
合計	5,725	237	6,400	265	675	28

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

14

セグメント別の見通しを説明します。

アルミ圧延品については当社全体の動きと連動していることから、後ほど当社全体の動きとして説明します。

伸銅品は、銅管の薄肉化製品を武器としたシェアアップと拡販により、増収増益を図ります。
加工品・関連事業は、地金高騰による駆け込み需要が続いた2014年度に比べ、競争激化や円安・地金高騰によるコスト高など、市場環境としては厳しさが増す見通しです。

連結経常損益分析 (2014年度 → 2015年度見通し)

UACJ

213 億円 (2014年度) → 230 億円 (2015年度見通し)

統合効果差 +44 億円を含む
(2014年度 36 億円 → 2015年度見通し 80 億円)



経常利益は、2014年の213億から2015年度は230億と増加する見通しです。

個別の要因としては、2014年度に大きな影響が出ていたローガン工場設備故障の悪化影響の多くがほぼ終息することにより26億円好転しますが、棚卸評価関係は地金価格上昇に伴う2014年度の好転影響がなくなり56億円悪化します。

また、タイ圧延工場の一貫生産開始に伴う立ち上げコストの負担増加により34億悪化しますが、一方、統合効果44億を含むコストダウンにより56億好転、販売関係により16億好転します。

これらにより、経常利益230億を確保します。

アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位:千トン)

品 種	2014年度 (A)	2015年度 見通し (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	607	637	30
箔 地	48	50	2
I T	28	26	△2
自 動 車	65	76	11
厚 板	48	70	22
その他一般材	159	154	△5
合 計	955	1,013	58
	国内市場向け 516 海外市場向け 439	国内市場向け 514 海外市場向け 499	国内市場向け △2 海外市場向け 60

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

16

2015年度のアルミ板の品種別売上数量見通しの内訳をお示します。

合計で100万トンを超え101万3千トンとなります。合計5万8千トンの増加と見込んでいます。

缶材は2014年度に減少しましたが、ローガンの操業が復旧することでその分が復活をする、あるいはタイ圧延工場が一貫生産を開始することもあり、3万トン増加と見込んでいます。

自動車関係は、北米などの自動車用パネル材などが少し増えてくる見込みです。

厚板はLNGが好調をキープし、2万トン強の増加。これらの結果、5万8千トン程度の売上数量増加を見込んでいます。

設備投資・減価償却費見通し

UACJ

(単位:億円)

		2014年度	2015年度見通し
設備投資	一般投資	120	120
	戦略投資	345	280
	合計	465	400
減価償却費		218	237
戦略投融资		38	未定

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

17

次に設備投資と減価償却の見通しについて説明申し上げます。

2014年度、2015年度とも戦略投資は、ほとんどがタイ圧延工場への投資となります。

戦略投資、これが今年は280億円と見込んでおります。これもほとんどがタイ圧延工場への投資です。280億円で終了すると見込んでいます。ここは積極的に投資していきますが、一方、既存設備の維持更新を主とした一般投資は極力抑えることで減価償却費のアップを防ぎたいと考えています。

戦略投融资については、前期は北米の自動車用パネル材事業の投資が38億でしたが、今年は検討中のため未定と記載しています。

3. 中期経営計画の進捗状況

続きまして、中期経営計画の進捗状況についてご報告します。

中期経営計画「Global Step I」の重点方針

- 1 自動車を中心とした輸送分野、エネルギー分野などの成長製品の拡大とアジアを中心とした成長地域の事業強化
- 2 各事業の最適生産体制の構築および技術融合の推進
- 3 先端基礎研究の強化と豊富な蓄積技術の活用による新技術・新製品の開発

実施に向けた具体的な方針

将来ビジョンの重点方針

- 新規成長分野・成長市場への積極的なグローバル展開
- 事業再構築によるコスト競争力の強化
- 新技術・新製品の開発の推進

2014年12月に発表した中期経営計画「Global Step I」の最新動向について説明します。

当社は3つの方針、重点施策を発表しました。

1つは成長する製品、成長する分野を徹底的に追求していくこと。要はグローバル展開をさらに強化していくということです。

2番目に国内事業の需要開拓と事業強化。最適な品種体制を作っていきたいということです。

3番目が研究を含む新製品・新技術の開発を強化していきたいということです。

この3つに当社の製造・販売・研究すべてのリソースを投入し、バランス良く進めていきたいと思っています。

一貫生産体制の確立に向け、第2期工事を順調に推進中

一貫生産体制の確立

- 2015年に鋳造～熱間圧延工程を立ち上げ、一貫生産体制を確立
- 2015年秋にはグランドオープンセレモニーを開催
- 2017年までに年間20万tの供給体制確立

競争力強化による差別化

- 高品質と低コストの両立するアジアにおけるアルミニウム板製造の基幹工場
- 製造、販売、研究開発一体で市場にアプローチ

アジア最高レベルの生産拠点への推進

- 年間30万tの生産体制実現への投資検討
- 利益を最大化する最適なプロダクトミックスの検討



グローバル展開の中のUACJ (Thailand) Co., Ltd.ラヨン製造所について説明します。

一貫生産体制の確立に向け、第2期工事を順調に推進中であり、すでに立ち上がっている冷間圧延以降のラインに加え、鋳造から熱感圧延までの工程を立ち上げて今秋にはグランドオープンセレモニーを開催する予定です。

2017年までには年間20万トンの供給体制を確立し、アジアにおけるアルミニウム板製造の基幹工場として、製造・販売・研究開発一体で市場にアプローチしていきます。

このタイ圧延工場の強みは高品質と低コストが両立できることですので、これをフルに活用していきたい。そのために製造・販売・研究を投入し、市場に強いアプローチをかけていきたいと考えています。

将来的には年間30万トンの生産体制の実現も検討しており、アジア最高レベルの生産拠点への推進を図ります。



ラヨン製造所 工場全景



量産が進んでいる缶材



調整中の溶解炉



試験製造中のスラブ



建設中の熱間圧延機



建設中の4スタンド
仕上圧延機

写真は現在建設中および試験調整中のラヨン製造所です。

溶解・铸造炉、熱間圧延機、4スタンドの仕上圧延機も順調に設置が完了しつつあり、稼働に向けてスケジュール通り調整中です。

その他成長地域の事業強化

UACJ

メキシコ・・・金属自動車部品

- 2015年4月30日にIWAI METAL CENTRAL MEXICO, S.A. DE C.V.が開業式を開催。
- メキシコで高まる自動車部品需要に応えるため、プレス、溶接、組立などを中心とした高精度・高品質な金属自動車部品を供給。



欧州・・・自動車用熱交換器材料 (2015年4月28日発表)

- 自動車の主要市場である欧州の自動車用熱交換器材料需要に対応し、ELVALとの間で新会社設立を検討開始。
- UACJブランドで欧州に販売し、高品質で競争力のある製品を提供していく計画。

米国・・・自動車パネル用アルミニウム

- 米国での自動車パネル用アルミニウム材事業については、2016年度操業開始に向けて順調に工場建設を推進中。



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

22

次にその他の成長地域における事業強化についてです。

<メキシコ>

メキシコのグアナフアト州は複数のカーメーカーが進出している自動車の集積地ですが、その近くにIWAI METAL CENTRAL MEXICO, S.A. DE C.V.を立ち上げました。2015年4月30日に開所式も無事に終わり、これからプレスや溶接、組立といった工程を踏まえて高精度・高品質な金属製の自動車部品を供給していきます。加工品事業の一つの大きなひな型として、これを今立ち上げている最中です。

<欧州>

自動車の主要市場である欧州の自動車用熱交換器材料需要に対応し、ELVALとの間で新会社設立の検討を開始しました。

UACJブランドで欧州に販売し、高品質で競争力のある製品を提供していく計画です。

<米国>

米国での自動車パネル用アルミニウム材については、2016年度操業開始に向けて順調に工場建設を推進中です。

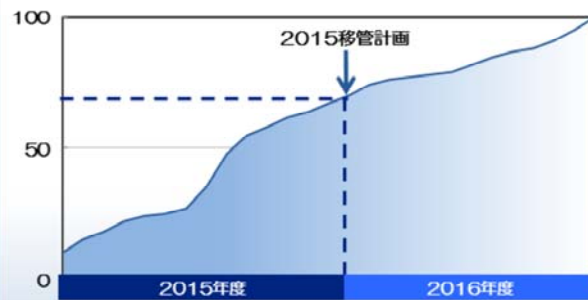
写真は小さいですが、幅75m、全長160mの大きな自動車専用パネルの建屋が着々と完成している最中です。

国内製造拠点の品種集約化の実施（2016年度完了目標）

【各製造拠点の位置づけ】

- <福 井> 缶材とLNG船用厚板主体の基幹工場
- <名古屋> 自動車材、印刷版用板材、フィン材の基幹工場
- <深 谷> 厚板主体の基幹工場
- <日 光> 精密特殊材主体の仕上専門工場

進捗率（%）



- 2016年度完了目標に対し、計画通り進捗
- 主な移管完了品種
 - ・キャップ材
 - ・フィン材の一部 など
- 移管完了に伴う設備休止実施
 - ・日光製造所
 - キャップ材表面処理ライン

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

23

続きまして、最適生産体制の構築についてです。

中期経営計画2つ目の重点施策に、国内の事業改革、最適生産体制の構築とありますが、その生產品種移管の状況です。

2016年度には品種移管を全て完了できるよう進めています。

国内の製造拠点は、

- ・福井は、缶材とLNG船用厚板主体の基幹工場
- ・名古屋は、自動車材、印刷版用板材、フィン材の基幹工場
- ・深谷は、厚板主体の基幹工場
- ・日光は、精密特殊材主体の仕上専門工場

という位置づけで品種集約を進めています。

ここに簡単な模式図がありますが、現在いろいろな準備を進めており2割くらい進捗しています。キャップ材とエアコンのフィンについては、日光から名古屋への移管がほぼ完了しました。

2015年度に70%くらい移管を終え、2016年度には100%完了を目指しています。

これは統合によるシナジーの一番大きな部分ですので、確実に遂行したいと思っています。

主要経営管理指標の進捗状況

UACJ

経常利益（億円）



EBITDA（億円）



D/Eレシオ（倍）



ROE（%）



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

24

最後に、主要経営管理指標の進捗状況です。

グラフは、中期経営計画で発表した2017年度の目標値に対する2015年度の進捗予定状況です。

2017年度の最終的な目標値は、経常利益350億円、EBITDAが670億円、D/Eレシオ1.33、ROE10%です。各指標は中期経営計画の目標線に乗っていると判断しています。

今後もタイ圧延工場を速やかに立ち上げるとともに、統合効果を着実に実現させ、目標達成を目指します。

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびにIR関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

広報IR部 TEL：03-6202-2654 FAX：03-6202-2021
URL：http://www.uacj.co.jp
(東証1部 コード番号：5741)